
中林賢二郎の仕事

中林賢二郎の仕事

2012.04.27

(注) 中林賢二郎さんの業績一覧は、『追憶 中林賢二郎』(追悼文集刊行委員会編、1987年2月11日発行)に詳細な「著作目録」(浅見和彦編)が掲載されている。

しかし時間の関係で、最初に、以下の発見からUPしておきたい。

●故中林賢二郎さんの論文リストを発見。

NACSIS Webcat (大学図書館のデータベース)・国立情報学研究所(〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2)の検索システムによって、なつかしき「わが中賢」さん(故中林賢二郎先生・法政大学教授)の文献一覧が出てきた。

亡くなられて25年(逝去は1986年1月)になるが、昨日のような気がする。

統一戦線・労働組合運動の意義を歴史的・国際的視野からここまで熱く語り、そして多くの組合活動家へ多大な影響を及ぼしたインテリゲンチヤはいないのではないか。

中林先生の仕事は、インターネット社会以前であり、歴史的にも20年以上、前の論文だが、なにか「ワーキングプア」といわれている現代に、そして数百万人に及ぶ非正規雇用・派遣の青年たちの「労働組合権」に大きなヒントがあると思う。
(現代労働組合研究会・飯島信吾)

1. 「労働組合 その歴史と役割—10—経済闘争と政治闘争の結合」 労働運動 (No. 240)、p224～229、1985/11 (新日本出版社)
2. 「労働組合 その歴史と役割—9—ストライキ闘争と労働組合」 労働運動 (No. 237)、p222～228、1985/08 (新日本出版社)
3. 「労働組合 その歴史と役割—8—団結権、争議権獲得の歴史は何を教えるか」

- 労働運動 (No. 236)、p209 ~ 215、1985/07 (新日本出版社)
4. 「労働組合 その歴史と役割—7—労働組合とその組織形態」 労働運動 (No. 235)、p226 ~ 231、1985/06 (新日本出版社)
 5. 「労働組合 その歴史と役割—6—労働組合運動と青年の役割」 労働運動 (No. 234)、p99 ~ 106、1985/05 (新日本出版社)
 6. 「労働組合 その歴史と役割—5—国際労働運動がしめす政党と労働組合の関係—下—」 労働運動 (No. 233)、p214 ~ 220、1985/04 (新日本出版社)
 7. 「労働組合 その歴史と役割—4—国際労働運動がしめす政党と労働組合の関係—上—」 労働運動 (No. 232)、p223 ~ 229、1985/03 (新日本出版社)
 8. 「労働組合 その歴史と役割—3—組合運動内における諸潮流と自覚的活動家の任務」 労働運動 (No. 231)、p222 ~ 229、1985/02 (新日本出版社)
 9. 「労働組合 その歴史と役割—2—労働組合運動の発展には科学的社会主義の理論が必要」 労働運動 (No. 229)、p145 ~ 151、1984/12 (新日本出版社)
 10. 「労働組合 その歴史と役割—1—労働組合は酒場からはじまった」 労働運動 (No. 228)、p208 ~ 214、1984/11 (新日本出版社)
 11. 「階級的労働運動を主敵とする運動史——「労働運動の理念」批判 (富士政治大学教科書批判 <特集>) (「総合コース」批判)」 労働運動 (No. 222)、p74 ~ 85、1984/05 (新日本出版社)
 12. 「現代労働組合組織論—1—現代日本労働組合運動と職種別・職業別団結」 賃金と社会保障 (No. 849)、p6 ~ 15、1982/09/10 (労働旬報社)
 13. 「イギリスにおける社会民主党結成と労働党」 研究資料月報 (No. 288)、p1 ~ 9、1982/08 (法政大学社会労働問題研究センター、法政大学大原社会問題研究所)
 14. <ARTICLES>New Stage of Labour Movement in Britain : Its Background and Aspects
(SPECIAL ISSUE (II) COMMEMORATING THE 30TH ANNIVERSARY

OF THE DEPARTMENT OF SOCIAL SCIENCE HOSEI UNIVERSITY)

Society and labour 28 (3/4)、53—90、(Hosei University)

15. 「イギリス労働運動の新たな画期——その背景と運動の諸相」(〔法政大学〕社会学部創設 30 周年記念論文集—中—)
Society and labour 28 (3・4)、p53 ~ 90、1982/03 (法政大学社会学部学会)
16. 「イギリス労働組合運動における職場組織と職場委員」研究資料月報 (No. 278)、p1 ~ 10、1981/08 (法政大学社会労働問題研究センター、法政大学大原社会問題研究所)
17. 「新たな胎動示すイギリス労働者——経済危機と労働運動」賃金と社会保障 (No. 808)、p55 ~ 58、1980/12/25 (労働旬報社)
18. 「イギリスでも進む組合の企業内化政策 (ロンドン便り—1—)」労働運動 (No. 175)、p201 ~ 205、1980/07 (新日本出版社)
19. 「労働組合の"原点"に立ち返り (80年春闘読本)」賃金と社会保障 (No. 783)、p19 ~ 21、1979/12/10 (労働旬報社)
20. 「労働運動の前進・停滞をめぐるイギリス左派内の論争」法政大学大原社会問題研究所資料室報 (No. 256)、p1 ~ 14、1979/06 (ISSN 03884767) (法政大学大原社会問題研究所資料室〔編〕/法政大学大原社会問題研究所資料室)
21. 「組織方針からみた79年春闘への提言 (79年春闘読本<特集>)」賃金と社会保障 (No. 760)、p160 ~ 165、1978/12/25 (労働旬報社)
22. 「組織論的視点の再検討と地域共闘問題」労働運動 (No. 156)、p143 ~ 156、1978/12 (新日本出版社)
23. アレン・ハット「イギリス労働組合運動小史」第6版の増補部分について
法政大学大原社会問題研究所資料室報 (No. 246)、p1 ~ 11、1978/07 (法政大学大原社会問題研究所資料室)
24. 「新しい組織形態——「一般労働組合」の意義——その現実的基礎と必然性について」労働法律旬報 (No. 951)、p4 ~ 6、1978/05/10 (労働旬報社)
25. はしがき (高野時代の労働運動) 労働運動史研究 (No. 61)、p1 ~ 3、1978 (労

働運動史研究会 編 / 労働旬報社)

26. 「労働運動の転換と前進課題——政治革新につながる諸努力（78年春闘読本 <特集>）」賃金と社会保障 (No. 736)、p14 ~ 17、1977/12/25 (労働旬報社)
27. On the Occasion of the Retirement of Prof. Tadashi Nakajima Society and labour 22 (3/4)、1—2、1977/11/20 (法政大学社会学部学会 / Hosei University)
28. 「世界労連開催の1953年の国際社会保障会議に関する資料」法政大学大原社会問題研究所資料室報 (No. 239)、p1 ~ 14、1977/11 (法政大学大原社会問題研究所)
29. 「連合時代」と総評運動——「"連合時代"に対応する大胆な政治運動の展開」は可能か（「連合の時代」と総評運動——新方針に思う）労働法律旬報 (No. 934・935)、p4 ~ 6、1977/09/10 (労働旬報社)
30. 「青年が胸にひそめている鋭い社会批判——新入組合員を迎えた組合活動家諸君に」労働運動 (No. 137)、p38 ~ 45、1977/05 (新日本出版社)
31. 「VILEM KAHANの研究によるコミンテルン最高諸機関の構成員」法政大学大原社会問題研究所資料室報 (No. 232)、p1 ~ 28、1977/02 (法政大学大原社会問題研究所)
32. 「労働運動の質的転換のための条件——今日における地域共闘の階級的意義（77年春闘読本）」賃金と社会保障 (No. 711)、p115 ~ 119、1976/12/10 (労働旬報社)
33. 「労働組合と政党との正しい関係——ヨーロッパの労働運動の経験から学ぶ」（国政の革新へむけて <特集>）労働運動 (No. 131)、p67 ~ 77、1976/11 (新日本出版社)
34. 「コミンテルン史研究の現況と「歴史の偽造」——立花隆氏への反論〔「朝日ジャーナル」3月19日号から転載〕前衛 (No. 395)、p190 ~ 192、1976/05 (日本共産党中央委員会)
35. <ARTICLES> Reconstruction of the 2nd International and Berlin Conference of three Internationals Society and labour 22 (3/4)、1—61、1976/03/20 (ISSN

-
- 02874210) (法政大学社会学部学会 /Hosei University)
36. 「危機における労働運動——その前進と後退」を特集するにあたって (危機における労働運動——その前進と後退 <特集>) 労働運動史研究 (Whole No. 58)、p1 ~ 3、1976/01 (労働運動史研究会 編 / 労働旬報社)
 37. 「堀江正規さんの死を悼む (追悼 故堀江正規先生と労働運動)」 賃金と社会保障 (No. 674)、p54 ~ 56、1975/05/25 (労働旬報社)
 38. <ARTICLES>The Guiding Theories and Founding Process of the 2 (1/2) International Society and labour 21 (3/4)、169—201、19750320 (法政大学社会学部学会 /Hosei University)
 39. 「労働戦線「再編・統一」運動の歴史的考察 (労働運動の新段階——60年代から70年代へ)」 労働運動史研究 (Whole No. 57)、p6 ~ 39、1974/12 (労働運動史研究会 編 / 労働旬報社)
 40. 「労働組合と政党 (みんなの労働組合教室 労働者との一問一答—2—)」 労働運動 (No. 108)、179 ~ 184、1974/12/00 (新日本出版社)
 41. 書評: 戸木田嘉久著「社会変革と労働組合運動」 労働運動 (No. 107)、190 ~ 191、1974/11/00 (新日本出版社)
 42. 「政治革新のための統一戦線と労働組合における「政党支持」問題 (政党支持論争総括と今後の課題)」 労働法律旬報 (No. 865)、4 ~ 11、1974/09/25 (労働旬報社)
 43. 「労働組合とストライキ闘争 (講座・労働組合入門—9完—)」 労働法律旬報 (No. 853)、37 ~ 42、24、1974/03/25 (労働旬報社)
 44. 社会主義協会「向坂派」の「統一戦線」論を批判する 労働・農民運動 (No. 97)、159 ~ 170、1974/02 (新日本出版社)
 45. 「政党と労働組合 (講座・労働組合入門—8—)」 労働法律旬報 (No. 849)、40 ~ 49、1974/01/25 (労働旬報社)
 46. 「政治闘争と経済闘争の結合 (講座・労働組合入門—7—)」 労働法律旬報 (No. 848)、78 ~ 83、1974/01/10 (労働旬報社)

47. 「国際労働者階級の運動の発展に確信——「コミンテルンの歴史」「プロフィ
ンテルン小史」(読書案内)」 労働・農民運動 (No. 95)、186～188、1973/12
(新日本出版社)
48. 「労働組合の組織形態 (講座・労働組合入門—5—)」 労働法律旬報 (No.
844・845)、82～89、1973/11/25 (労働旬報社)
49. 「現代の政治革新と労働運動——三野党連合政権綱領と労働運動の課題 (74
年春闘読本)」 賃金と社会保障 (No. 638)、13～19、1973/11/25 (労働旬報社)
50. 「デグラスのコミンテルン資料集とその邦訳について (コミンテルンの歴史に
よせて (特集))」 歴史学研究 (No. 402)、68～70、1973/11 (歴史学研究会
編 / 青木書店)
51. 「歴史的背景に関連させて」 (今日の労働組合運動—3— [第3回夏の労働学
校誌上公開] (特集))—— (講義2 ささまざまな反共主義・労資協調主義との闘争)
労働・農民運動 (No. 92)、110～141、1973/10 (新日本出版社)
52. 「不団結と分裂の要因」 (講座・労働組合入門—4—) 労働法律旬報 (No.
841)、42～47、1973/09/25 (労働旬報社)
53. 「労働者の団結権」 (講座・労働組合入門—3—) 労働法律旬報 (No. 839)、
38～44、1973/08/25 (労働旬報社)
54. 「団結の経済的基礎 (講座・労働組合入門—2—)」 労働法律旬報 (No. 837)、
46～51、1973/07/25 (労働旬報社)
55. 「労働組合への団結 (講座・労働組合入門—1—)」 労働法律旬報 (No. 835)、
58～63、1973/06/25 (労働旬報社)
56. 協会派の反共性への " 弁明 " —— 「労働組合と政治闘争」 (「現代と労働運動
—5—」) について (協会派の現代帝国主義論・政党論・統一戦線論批判—2—)
労働・農民運動 (No. 87)、127～135、1973/05 (新日本出版社)
57. 「最近のイギリス労働運動 (春闘民間共闘幹部講座)」 月刊総評 (No. 185)、4
～28、1972/10 (日本労働組合総評議会 編 / 日本労働組合総評議会)
58. 「戦線統一・生活闘争と総評労働運動——総評大会と日経連の共同歩調よびか

-
- けをめぐって [in Japanese] 賃金と社会保障 (No. 609)、2～6、1972/09/10 (労働旬報社)
59. "総がかり春闘方式の発展によせて"——イギリス炭鉱ストに関連して」賃金と社会保障 (No. 604)、2～4、1972/06/25 (労働旬報社)
60. 「イギリス (今日の組織問題 (創刊6周年記念総特集))——(ヨーロッパの労働組合の組織形態の特徴)」労働・農民運動 (No. 74)、118～122、1972/05 (新日本出版社)
61. 「勝利したイギリス炭鉱労組の7週間ストライキ」労働・農民運動 (No. 73)、21～27、1972/04 (新日本出版社)
62. 「団結は労働者のいのち——権利闘争の歴史的教訓から」労働・農民運動 (No. 71)、18～26、1972/02 (新日本出版社)
63. 「第2講座 国際労働運動における労働貴族(今日の労働組合運動——その組織・戦術・政策 (夏の労働学校全講義) (総特集))」労働・農民運動 (No. 67)、128～133、1971/10 (新日本出版社)
64. 「労働戦線再編運動の性格と経緯 (労働戦線再編運動をめぐって (特集))」労働法律旬報 (No. 789)、3～14、1971/09/25 (労働旬報社)
65. 「討論・運動史からなにを学ぶか (戦後労働組合運動の歴史—14完—)」労働・農民運動 (No. 47)、190～197、1970/02 (新日本出版社)
66. 「70年」をむかえる労働者階級と人民のたたかひのあらたな前進 (戦後労働組合運動の歴史—13—) 労働・農民運動 (No. 46)、22～234、1970/01 (新日本出版社)
67. 「イギリス共産党の成立 (国際労働運動の歴史と現状 (特集))——(コミンテルン各国支部の成立)」労働運動史研究 (No. 51)、52～70、1970/01 (労働運動史研究会 編 / 労働旬報社)
68. 「コミンテルンの成立——初期コミンテルン史をめぐって (国際労働運動の歴史と現状 (特集))」労働運動史研究 (No. 51)、9～24、1970/01 (労働運動史研究会 編 / 労働旬報社)

69. 「新安保体制のもとで（戦後労働組合運動の歴史—12—）」 労働・農民運動（No. 45）、193～203、1969/12（新日本出版社）
70. 「かちとられた国際連帯のきずな（戦後労働組合運動の歴史—10—）」 労働・農民運動（No. 43）、208～218、1969/10（新日本出版社）
71. 「サンフランシスコ体制下における労働組合運動と統一行動の発展（日本労働運動の歴史と課題）」 労働運動史研究（No. 50）、110～143、1969/06（労働運動史研究会 編 / 労働旬報社）
72. 「戦後期の国際労働組合運動と日本の労働組合運動（戦後労働組合運動の歴史—4—）」 労働・農民運動（No. 37）、192～202、1969/04（新日本出版社）
73. 6 戦後労働組合運動の国際的連帯関係（戦後労働運動の展開過程）——（第1部 労働運動の潮流） 社会政策学会年報（No. 15）、102～120、1968/04（御茶の水書房）
74. 「統一戦線史論——そのいくつかの問題点（統一戦線の歴史）」 労働運動史研究（No. 48）、9～31、1968/04（労働運動史研究会 編 / 労働旬報社）
75. 「労働組合と政党——その関係を原則的なものにするために」 労働・農民運動（No. 24）、45～54、1968/03（新日本出版社）
76. 「戦後労働組合の国際連帯史の五つの時期」 労働運動史研究（No. 47）、20～27、1967/05（労働運動史研究会 編 / 労働旬報社）
77. 「国際労働運動と産業再編成」 エコノミスト 45（16）、158～162、1967/04（毎日新聞社）
78. 「戦争と労働者階級」 労働法律旬報（No. 585）、13～17、1966/02（労働旬報社）
79. 「国際労働組合運動でアメリカの労働組合幹部が果してきた役割」 労働運動史研究（No. 41）、1965/11（労働運動史研究会 編 / 労働旬報社）
80. アレン・ハット著「イギリス労働組合運動小史」第5版について 労働運動史研究（Whole No. 38）、1965/07（労働運動史研究会 編 / 労働旬報社）
81. 「主流としての重み・総評——日本の巨大組織—4」 朝日ジャーナル 7（14）、1 1965/04（朝日新聞社）

-
82. 「国際路線は第三勢力論——総評はどこへ行く」 エコノミスト 41 (29)、1963/07 (毎日新聞社)
83. 「産業別統一と政治的統一闘争——総評新方針案を中心に」 月刊労働問題 (No. 39)、1961/07 (日本評論社)
84. 「春闘にのぞむにあたってアメリカ鉄鋼ストのおしえるもの」 労働法律旬報 (No. 404)、4～8、1961/01/15 (労働旬報社)
85. 「組合分裂の傾向をめぐって—2 (完)」 月刊労働問題 (No. 30)、1960/10 (日本評論社)
86. 「安保斗争の高まりと日教組大会」 教育評論 (No. 98)、1960/07 (アドバンテージサーバー [編] / アドバンテージサーバー)
87. 「組合分裂の問題をめぐって——運動史的側面よりの考察」 月刊労働問題 (No. 26)、1960/07 (日本評論社)
88. 「安保条約改定反対闘争と国会」 思想 (No. 427)、1960/01 (岩波書店)
89. 「警職法「改正」反対運動と労働者階級」 思想 (No. 416)、1959/01 (岩波書店)
90. 「中近東におけるアメリカ資本」 Journal of world economy 5 (10)、29～39、1950/10 (世界経済調査会)